

# 東京の産業と教育

## 会 の 目 的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

## 第15回 全国産業教育フェア東京大会 『さんフェア東京2005』

第15回全国産業教育フェア東京大会は、文部科学省他関係教育団体の主催により「首都東京からの情報発信 お台場に夢開く豊かな心」を大会スローガンに開催されました。まず8月7日（日）に「高校生ものづくりコンテスト全国大会」が都立江戸川技術専門校で、次いで10月14日（金）から22日（土）まで「ガーデンコンテスト」が日比谷公園で、そして11月26日（土）、27日（日）に日本科学未来館を主会場として「本大会」が開催されました。

本会会員校の教職員、生徒は大会運営に精力的に取り組み、大会を盛り上げるとともに各競技会において優秀な成績を収めました。

### 〔全国高等学校生徒商業研究発表大会〕

優秀賞：東京都立葛飾商業高等学校

「葛飾区の地産地消運動～地域の商店のネットワークと知的財産権の研究～」

優良賞：東京都立芝商業高等学校

「ブランド向上追求とフィランソロピー」

### 〔高校生ものづくりコンテスト全国大会〕

○化学系 化学分析部門

3位：東京都立科学技術高等学校

科学技術科 花嶋宏起

○建設系 木材加工部門

優勝（農林水産大臣賞）：

東京都立工芸高等学校

インテリア科 森田小百合

### 〔日比谷ガーデンニングショー高校生部門〕

○スモールガーデン部門

金賞：東京都立園芸高等学校定時制園芸科

「気分は森林浴」

銀賞：東京都立農林高等学校林業科

「俺等龍」

○スモールフラワーガーデン部門

金賞：東京都立農林高等学校園芸科

「鳥の集まる庭」

銀賞：東京都立農芸高等学校

「秋の風景」

銅賞：東京都立園芸高等学校定時制園芸科

「花の宇宙」

○ハンギングバスケット部門

第1位：東京都立瑞穂農芸高等学校

柳谷幸菜 「枯れ木に花」

第2位：東京都立園芸高等学校

保科明子 「Green Green」

第3位：東京都立園芸高等学校

柳田武蔵 「野獣」



ガーデンニング会場



生徒作品 行灯



ロボットコンテスト開会式

# 平成17年度 見学・研修会

東京都産業教育振興会主催の平成17年度見学・研修会は、日野工業高等学園及び日野自動車（株）のご協力を得て、12月2日（金）午後2時から40名の参加を得て実施した。

見学会に先立ち信川仁道 都産振副会長の挨拶があり、続いて田島英幸 日野工業高等学園長より、学園の教育方針等の説明があつて見学会が開始された。

## 1 見学会

### (1) 日野自動車本社工場見学

参加者は2班に分かれて、大型トラックの組み立てラインを見学した。約50分の見学の中で大型トラックが次々に完成して行く過程に、自動車の製造現場を実感した。また、同一ラインで1台ずつ仕様の異なる車種をミックスで生産できる生産方式にも驚かされた。

広大な工場の中を部品を満載したフォークリフトやライントレーサーが行き交うなかの工場見学は、臨場感に溢れた迫力ある見学会だった。

### (2) 日野工業高等学園実習授業見学

当日は、3年生の実習を見学したが、生徒達が真剣に授業へ取り組んでいる姿に感心した。

授業は、4つの班の実習を見学したが、どの班も見学者が実習室に入ると「こんにちは！」と元気良く挨拶をしてくれ、自分達の作業を黙々と続けていた。その顔には、自信と誇りが感じられた。日野工業高等学園の徹底した基礎・基本の重視と人間性の教育がうかがえる実習授業の見学であった。

## 2 研修会

テーマを「自動車産業に於ける先端技術の現状と今後のあり方」と題して、環境と人に優しいトラック・バスづくりの観点から、お二人より講演をいただいた。

### (1) 秋山興平氏（技術研究所 車両研究室 安全技術グループ長）の講話

現在のトラック事故をはじめ自動車事故の現状を話された後、日野自動車が進めている安全



組み立てライン

対策の説明があつた。特に日野自動車が行っている4段階の安全対策は次のようであった。

- ①事故の原因となる眠気や疲労を未然に防ぐ
- ②衝突やスリップなどの事故を防ぐ
- ③事故発生時の保護対策
- ④歩行者や二輪車等の第三者の安全を確保

これらの研究に取り組んでいる様子を詳細に語ってくれた。さらにセンサーを応用して車間距離を保つブレーキ制御の研究、衝突時の衝撃を和らげる構造の研究及び、緩衝材の開発等、安全性を全面に掲げた車両の研究とその実現性について、参加者の多くが興味深く耳を傾けていた。

### (2) 下川清広氏（エンジン研究室 排ガス・性能グループ長）の講話

ディーゼルエンジンの低公害化技術の現状とあらゆる環境を配慮した研究開発のあり方について詳しい説明があつた。

ディーゼルエンジンの二大課題である、NOx（窒素酸化物）と黒煙等の粒子状物質は、どちらかを少なくすれば、他方が増えてしまうという二律背反の関係にあるそうで、更にNOx等の減量対策とエンジンの効率をあげる開発にも相反するものがあり、技術陣の苦悩を感じた。地球の環境を守るため、無公害車の実現を求めて研究開発を進めている技術研究所に対して、参加者は、深く感動した様子だった。

質疑応答の後、信川副会長より謝辞があり、有意義な見学・研修会であった。

## 中学校技術・家庭科

# 第3回 創造ものづくりフェア in Tokyo

北区立滝野川中学校長 岩附 政美

第3回創造ものづくりフェア in Tokyo が11月19日(土)と26日(土)の2日間、足立区立千寿桜堤中学校と女子栄養大学の2会場に分かれて開催されました。今年から家庭科の食部門が始まり、会場や審査の都合で、その会場を女子栄養大学にお願いしたのです。2会場合計の参加者総数は約450名(運営、引率教員、保護者等を含む)生徒関係の参加状況は、ロボコン部門：参加ロボット数174台・生徒数267名、ものづくり部門：参加校5校・生徒数19名、展示作品49点、そして、食部門は予選(書類選考)参加チーム数175チーム、決勝参加チーム数20チーム・生徒数54名という状況でした。

主会場は、昨年までの東京都総合技術教育センターが改装のため使用できず、足立区立千寿桜堤中学校をお借りしましたので、学校関係者の方々

の多大なご協力をいただきました。感謝致します。

今年は、部門が増えたにもかかわらず、昨年度より少ない参加人数でした。その理由はいろいろ考えられますが、ポスターをウェブからダウンロードする方式にしたことで宣伝が行き届かなかったこと、一部の部門で参加費を徴収したこと、会場が都心をはずれたこと、等が考えられます。とくに、家庭科の被服部門は、参加者がおりませんでした。このことは、来年度に向けての大きな反省点となりました。

都内の中学生が1年に1度、一堂に会し、日頃の技術・家庭科の授業で身につけた技や知識を競い合い、お互いの創造性を伸ばすこのフェアが、教科の意義や学習内容を広く都民の皆様にご理解いただく良い機会になったと思います。

## 東京都建設系

# 高校生作品展

都立田無工業高等学校長 能智 功

東京都建設系高校生作品展は、東京都都市計画局と(社)東京建設業協会との共催により、都内にある私立・都立高校の工業・農業科建設系学科12校(14学科)に学ぶ生徒が、日頃培った学業の成果を発表する場として、平成4年度より開催している。

今年度は11月17日(木)から3日間、新宿モノリスビル1Fおよび2Fにて開催された。若年者の建設業界への就職並びに雇用確保の促進、都民の方々へ建設に対するご理解を深めて頂くことを目的としている。

今年度は①製図②実習③課題研究の各部門に対し140点余りの作品が出展され、最優秀作品には次の作品が選ばれた。(②実習は該当無し)

①製 図 昭和第一学園高等学校 建築科3年  
『部活動による製図』

③課題研究 都立蔵前工業高等学校 建築科3年  
『木造交差しブールド』



作品展会場風景

# がんばる東京の産業界

## 近畿日本ツーリスト(株)

資本金 75 億 8000 万円 代表取締役 太田 孝  
本 社 東京都千代田区神田松永町 19-2

### <創業>

昭和 30 年近畿日本航空観光(株)と日本ツーリスト(株)が合併、近畿日本ツーリスト株式会社発足。

### <従業員>

4,977 人。拠点数：国内 239、海外 34、都市 42。

### <トピックス>

昨年創業 50 周年を迎え、本年からは第 2 の創業として新たな業態構築に向け挑戦中。

### <特筆事項>

都内の学校の修学旅行取扱で発展・拡大してきた日本ツーリストの流れを汲む東京第 1 教育旅行支店は業界唯一の公立学校市場専門店舗。

主要担当市場は東京 23 区内の公立学校、国立大付属校で、そこから発生する教育旅行全般の取扱。中でも公立中学校の修学旅行ではシェア 50%を誇り No. 1 業者の地位を確保・維持している。

### <青年へのメッセージ>

民俗学では旅を他火と解釈し、慣れた日常空間か

ら離れた異空間を訪れて、苦勞を伴うが見知らぬ土地の人や未知との出会いから見聞を広め様々な経験を積んで行ける機会であると捉えています。この意味で苦勞をする分成長することから「かわいい子には旅をさせろ」と言われてきているのです。はたして現代の旅に未知の部分と苦勞をすることがどの位あるでしょうか？

パソコン・携帯電話の普及と情報誌の増大により人々は世界中の異空間の情報が簡単に手に入られるようになりました。航空機・新幹線・高速道路も整備され「他火」で経験する驚きや感動が失われつつあると言えます。「人はつらい経験、苦勞をした分他人にやさしくなる」「振り返る人生があってこそ深い想いが生まれる」と言われますが、人生そのものがまさに旅（他火）なのかも知れません。青年諸君、今の内に大いに苦勞をして下さい。

## (株)カナック企画

資本金 1000 万円 代表取締役社長 金子 高一郎  
本 社 東京都葛飾区高砂 1-21-4

<創業> 75 年。これは当カインズグループが創業から数えた年月です。創業時は先代がリヤカーを引っ張り、街中で回収した古い木箱を解体し、新しい木箱を作る商売から始まりました。株式会社カナック企画は、当グループの一社として新たに設立されてから今年で 25 年目を迎え、その長い歴史の中で社業を継続してまいりました。

<事業案内> 弊社の事業は自分の気に入ったカーステレオやカーナビゲーションを装着するために必要なパネル、ブラケットなどの機工品から、配線コネクターや電子回路設計品などをセットにしたキットを車種ごとに設計、製造、販売まで一貫して行っています。国内の全メーカー車及び、輸入車と豊富なラインナップで、取り付けキット業界では日本のトップメーカーに位置づけられています。

<経営理念> 未来に向けて豊かな社会環境を引き継ぐことが企業活動の重要な使命の一つであるとの認識に立ち、現在も未来も社会から信頼され続けることが企業としての役割だと考えます。弊社の開発者たちは、自分で設計、開発した製品が店頭で、お客様が購入している姿を見て、商品開

発の醍醐味と技術者冥利を味わっています。

<特筆事項> 最近では海外からの引き合いも多く、自分で作った商品を海外で目にする機会も出てきます。そのような感動を是非今の若者たちにも感じて頂きたい。また、そのような感動を自分の手で作り上げていく機会を設けることも、若者たちを受け入れる企業の責任だと考えています。今後も若者の意見も取り入れながら社会貢献に尽力してまいります。

<青年へのメッセージ> 最後にチャレンジスピリッツを持った若者であれば、学歴を問わず幅広く募集をしていますので是非応募してみてください。



当社商品を使用した取付例

## 平成18年4月開校の高等学校等の紹介

### 東京都立総合工科高等学校 全日制・定時制課程

東京都世田谷区成城 9-25-1 TEL 03-5429-1901  
(小田急線「成城学園前」駅徒歩 15 分)  
(京王線「仙川」駅バス約 5 分、「千歳烏山」駅バス約 10 分)

本校は平成 18 年 4 月に緑豊かな成城の地に開校します。全日制課程に機械・自動車科、電気・情報デザイン科、建築・都市工学科の 3 学科と定時制課程に総合技術科を有する専門高校です。理工系大学進学を目指すスペシャリストを育成するために継続したキャリア教育を行い、テクノロジーやものづくりの魅力を伝え、確かな学力と豊かな国際感覚を身に付けることを目指しています。

#### 確かな学力を育てる授業と学校設定科目

理工系、美術系大学進学のため、数学、理科、英語の習熟度別・少人数授業と、長期休業日や土曜日に補習講座を行います。「Web デザイン」「キャリア実習」「国際技術」等、本校独自の科目の中で、先端のコンピュータ技術や学科を超えた幅広い学習を行うことができます。

#### キャリアガイダンスと国際交流プログラム

生徒一人一人のキャリア形成のためキャリアガイダンスを実施し、専門分野では一人一つ以上の

国家資格の取得を目指します。JICA 東京等と連携した国際交流プログラムや地域社会に貢献するボランティア活動を充実させます。また、希望者には海外スタディツアーを予定しています。

#### 充実した施設・設備を活かしたものづくり連携

本校は他校にない施設・設備を有する設備拠点校（平成 18 年度より実施）としての役割を担っており、他の都立工業高校に対して 3 次元 CAD キャティア等の最先端技術を活用した「先端的技術に対応した実習」や「総合実習」を行います。また、今後はものづくり教室を通して小・中学校と連携するとともに、大学等の外部研究機関とも連携を図ることにより、本校の教育活動の個性化・特色化を図っていきます。



総合工科高等学校 新校舎

### 東京都立青梅総合高等学校 全日制・定時制課程

東京都青梅市勝沼 1-60-1 TEL 0428-22-7604  
(J R 青梅線「東青梅」駅徒歩 3 分)

いよいよ平成 18 年 4 月、西多摩地区初のスケールの大きな総合学科高校、都立青梅総合高等学校が開校します。

総合学科の特徴は、生徒が自分の興味・関心や進路希望に応じて系列や科目を選択することができること、「産業社会と人間」という科目を中心に自分自身をよく見つめ、自分の生き方や進路について自覚を深めることができることにあります。

本校は、全日制課程に文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の 5 系列、定時制課程に生命・自然、生活・福祉の 2 系列を設置しています。生徒は個性を伸ばしながら、21 世紀のキーワードである重要な分野を学び、未来を切り拓いていく力を身に付けることができます。

また、本校は都立高校随一の緑豊かで広大な校地、大規模改修を行った新しい校舎、充実した施設・設備など、豊かな教育資源を有しています。これらを有効に活用して、キャリア教育、農業教

育、環境教育、情報教育、語学教育を推進していきます。

開設準備の 2 年間で、5,000 名を超える中学生、保護者、教職員、塾の方々に本校の説明を聞いていただきました。そして、「個性を伸ばし、未来を拓く学校」という、本校の教育理念を理解していただきました。

今後も、総合学科に寄せる都民の期待に応え、入学する生徒に夢と希望を与える学校にしていきたいです。



青梅総合高等学校 新校舎

## 東京都立産業技術高等専門学校

品川キャンパス 東京都品川区東大井 1-10-40 TEL03-3471-6331  
(りんかい線「品川シーサイド」駅 徒歩 3 分)  
荒川キャンパス 東京都荒川区南千住 8-52-1 TEL03-3801-0145  
(東京メトロ日比谷線「南千住」駅 徒歩 15 分)

平成 18 年 4 月、都立工業高専と都立航空工業高専が統合・再編され、新たに東京都立産業技術高等専門学校としてスタートします。

両高専は昭和 37 年に設置されて以来、5 年間一貫の実践的技術者教育によって、多くのものづくり人材を輩出し、東京都の産業振興に寄与してきました。しかし、近年の産業構造の変化、技術の高度化・複合化により、付加価値の高い製品の企画力や開発力を兼ね備えた高度実践的技術者の育成が求められるようになりました。

新高専では、品川・荒川の 2 キャンパスに本科、ものづくり工学科 8 コースが設置されます。また、この本科 5 年間の上にさらに 2 年間の専攻科、創造工学専攻 4 コースが開設され、より高度な開発型の実践的技術者教育が行われます。これにより、公立大学法人首都大学東京・産業技術大学院大学への進学も視野に入れた、高等専門学校から大学

院に至る 9 年間一貫のものづくり教育システムが、我が国で初めて構築されることになります。

新高専の教育理念として、次の 4 つの理念(要旨)が謳われています。

1. 科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる応用力・創造力の育成
2. 高い専門性とともに多角的視野と柔軟性を持った(「一専多能」型)技術者の育成
3. 東京の産業再生や課題解決(「東京工学」)に果敢に挑戦する意欲と能力の育成
4. 社会的倫理観を持ち、技術者として多面的に判断して行動できる素養と基礎能力の育成

新高専では、この教育理念のもとで、産学公連携や共同研究を推進し、政策課題等の解決のための支援・協力体制を整備しながら、企業や都民の新たなニーズに応じていきます。

## 私たちの産業教育(会員校からのメッセージ)

### 学校法人明昭学園 岩倉高等学校

東京都台東区上野 7-8-8 TEL03-3841-3086  
(JR「上野」駅入谷口前)

明治 30 年 6 月 5 日官公私立の鉄道に必要な従業員養成のため、私立鉄道学校を設立しました。同 36 年にわが国における鉄道界の恩人である岩倉具視公を顕彰するため、校名にその名を冠して岩倉鉄道学校と改名しました。更に昭和 23 年に泰東商業学校(昭和 7 年に併設)を統合して機械科、運輸科、商業科、普通科の 4 科を有する岩倉高等学校として今日に至っております。現在までに卒業生は 50,000 人を超え、特に鉄道界への進出は目覚ましいものがあります。

本校は創立以来岩倉公の遺徳を慕い正心第一、質実剛健を校訓として堅実な校風を培ってきました。

各科の教育内容は近年エレクトロニクスの飛躍的発展による情報化社会の進歩に適するよう情報処理教育に力を入れております。

1. 機械科 運転技術コース、自動車整備コース、情報技術コース、進学コース

2. 運輸科 鉄道業務・観光業務コース、進学コース
3. 商業科 ビジネスコース、情報デザインコース、鉄道観光業務コース、進学コース
4. 普通科 大学進学を軸とし特に「自ら学ぶ」を基本としています。放課後は恵まれた環境の自習室などで自ら学習するとともにきめ細かな指導が受けられます。大学進学希望者の 60～70%の生徒の夢をかなえています。



実車を用いた列車運転シュミレーター

# 生徒作文及び表紙デザイン表彰式

生徒作文及び表紙デザイン表彰式が12月15日(木)第二本庁舎ホールで行われた。

本年度は毎年行っている生徒作文の表彰と本会創立50周年を記念して募集した表紙デザインの表彰式を一緒に行った。

受賞者は晴々とした表情で表彰式に臨み、本会の郷宗親会長から賞状と記念品を授与された。

## 1 生徒作文表彰

本年度は中学校212編、高等学校59編、専修学校26編、合計297編とここ数年の中で最も多くの応募数があった。

### 【優秀賞】

#### ○中学校の部

|             |       |
|-------------|-------|
| 杉並区立中瀬中学校   | 中村風花  |
| 練馬区立石神井中学校  | 武藤まり子 |
| 練馬区立大泉学園中学校 | 澤崎ひかる |

#### ○高等学校の部

|        |      |
|--------|------|
| 愛国高等学校 | 海野綾子 |
|--------|------|

#### ○専修学校の部

|          |      |
|----------|------|
| 青山製図専門学校 | 高橋亜紀 |
|----------|------|

## 2 表紙デザイン表彰

本会創立50周年を記念して会誌と生徒作文集の表紙デザインを生徒、学生から募集した結果「会誌」は24編、「生徒作文集」は92編の応募数があった。

### 【最優秀賞(表紙デザインとして採用)】

#### ○会誌の部

都立第三商業高等学校 半澤寛之

#### ○生徒作文集の部

都立工芸高等学校 太田みなみ



表 彰 式

## 産業教育功労者(中央会)および中学校技術・家庭科教育功労者表彰式

本年度も産業教育功労者表彰式が、平成17年11月11日(金)に都庁第一本庁舎特別会議室で行われた。今年度の表彰者は高等学校17名、中学校8名、計25名であった。

今年度から、短期大学と専修学校にも本会の産業教育功労者表彰を拡大したが該当者の申請がなかった。

受賞式の出席者は、高等学校13名、中学校7名の計20名であった。

受賞者の方々には、永年の生徒指導や専門分野における研究、さらに日ごろの授業など、さまざまな苦労が今回の表彰に繋がったことと思われる。

式辞では、信川仁道副会長から長年の仕事に対するねぎらいのことばと、今後の健康や生活等に対する励ましのことばがあった。

東京都教育委員会を代表して、齊藤一男学務部

長から、産業教育にたいする多大な貢献に対し、感謝とお礼のことばがあった。

来賓は、東京都公立高等学校長協会会長 晴海総合高等学校長 佐治恒孝氏、東京都中学校長会代表 千寿桜堤中学校長 高橋和夫氏のご臨席を得た。

来賓のお二人からは、永年の仕事へのねぎらいのことばと今後の過ごし方等、温かく心のこもった祝辞をいただいた。

最後に、高等学校を代表して豊島学院理事長の今関一幸氏と、中学校を代表して葛飾区立新宿中学校長 鈴木久一氏から、学校や生徒の変化、教育課程に対する思い出などを取り入れた謝辞があった。

式後、高等学校と中学校に分かれて記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中で、式を終了した。

## 専修学校の4年制専門課程修了者に「大学院入学資格」と「高度専門士」の称号を付与

平成17年9月9日、学校教育法施行規則（文部科学省令）の一部改正によって、専修学校のうち一定の基準を満たす学科（文部科学大臣が認可）の修了者に対して、「大学院入学資格」が付与されることになった。また、「専修学校の専門課程の修了者に対する専門士及び高度専門士の称号の付与に関する規定」が文部科学省より告示され、同様の要件を満たす学科の修了者に、「高度専門士」称号が付与されることになった。

「大学院入学資格」付与に係わる改正は、平成17年1月の中央教育審議会答申「わが国の高等教育の将来像」の提言に基づいて行われ、「高度専門士」称号の付与に係わる規定は、平成17年3月にまとめられた「今後の専修学校教育に関する調査研究協力者会議」の報告における提言に沿ったものである。

この二つの新しい制度で文部科学大臣が認める学科の対象となるのは、以下の基準（要件）を満たす学科である。

たす学科である。

- 1) 修業年限が4年以上であること。
- 2) 課程の修了に必要な授業時数が3,400時間以上であること。
- 3) 体系的に教育課程が編成されていること。
- 4) 試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程終了の認定を行っていること。

この新制度によって、専門学校卒業生の活躍の場が従来以上に多様に広がることが期待されている。

この制度発足を受けて、平成17年12月9日に「高度専門士」称号付与の認可学科が文部科学省から告示されたが、今回認可された東京都内の専門学校は本会会員校である二葉栄養専門学校の管理栄養士学科のほか15専門学校23学科である。

今回認可された学科の修了者に対しては卒業時に新称号が付与されるので、平成18年3月に最初の「高度専門士」が誕生することとなる。

（資料提供：社団法人 東京都専修学校各種学校協会）

## 新 会 員 紹 介 (平成17.10.1以降)

○学校法人 愛国学園 愛国学園保育専門学校 理事長・校長 三浦 亮一

〒133-8585 江戸川区西小岩5-7-1 TEL: 03-3658-4111

幼児教育科、介護福祉士専攻科があり、実習経験を通して実践力を身につけた人間性豊かな保育士・幼稚園教諭、介護福祉士を養成しています。

### 事務局より

○本会は産業界、教育界および行政の三者が一体となり相互の理解を深め、協力しあって有意な職業人の育成を図ることを目的としています。その事業に必要な経費は会員の会費で運営しています。この主旨にご賛同をいただき、より多くの方々のご紹介をお待ちしています。

○今年度も残りわずかとなりました。皆様のご協力の下、東京都産業教育振興会50周年記念式典及び生徒・学生作品展を行うことができました。これも皆様のおかげと事務局一同感謝しております。

○6月下旬に総会・講演会等が開かれる予定です。

会員の皆様方のご出席をお願いします。

○本会の事業につきまして、ご意見・ご要望などございましたら、随時受け付けておりますので、事務局までご連絡ください。

発行 東京都産業教育振興会

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁学務部高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

Fax 03-5388-1727

印刷 有明印刷株式会社

 古紙配合率100%再生紙を使用しています